

妄想優等生

いつも優等生と言われている私ですが、頭の中ではいつも
いけないことばかり考えています。今日もまたつい妄想してしまいました。



今日も憧れの先生と会うことができました。
でも、今日は会っただけでは済まさせません…。

おはようございます。先生。

ドキ

ああ、おはよう。今日も早いな。

ドキ

先生、今日こそは私のことを抱いて
頂きますよね？

フルニ

いいいや。それは無理だ…。

ムキ

そうですか…。



先生はとても真面目で誠実な男性です。
そんな先生に、私は下着を見せて挑発します…。

先生…とうですか？私の下着…。

ドキ

ドキ

お、おい。あんまり
からかうんじゃない。

からかってなんか
いませんよ…。先生に見て
頂きたいんです…。

ムム

ムム



昼休み、先生を誰もいない教室に
呼び出しました…。

ハ—ハ—

ねえ、先生…私と
気持ちいいこと…しませんか？

ほら…私のアソコ、先生のことを
考えただけでこんなに…。

ムチ

い、いいのか？

はい…。
来てください…。

2428

10

あ：先生：。
もっと舐めて：。

すごいな：。もう
こんなに濡れて：汁が
どんどん溢れ出てくるぞ。

そ、それは：。先生に
舐めてもらってると
思っただけで：。

まったくこんでもなく
悪い生徒だな。



お昼休みが過ぎてしまいました、
そのまま先生に抱いてもらいました…

うあっ！せ、
先生…授業…始まっていますよ…

いいよそんなの。君のこと、もっと
味わいたいんだ。

あん…先生……

今日は友達の彼氏を誘惑して
してしまいました…

どうしたの？
もう終わり？

も、もうゴムが…

そんなの無くていいよ。
生でして…

ま、マジでー？

うん…いいよ…

この後、何度も私の中に
彼のものが
注ぎ込まれました…。
友達はこのことを知りません。



今日は弟を部屋に連れ込みました。

ね、姉ちゃん。どうしたの？

ん？勉強教えてあげようと思っ

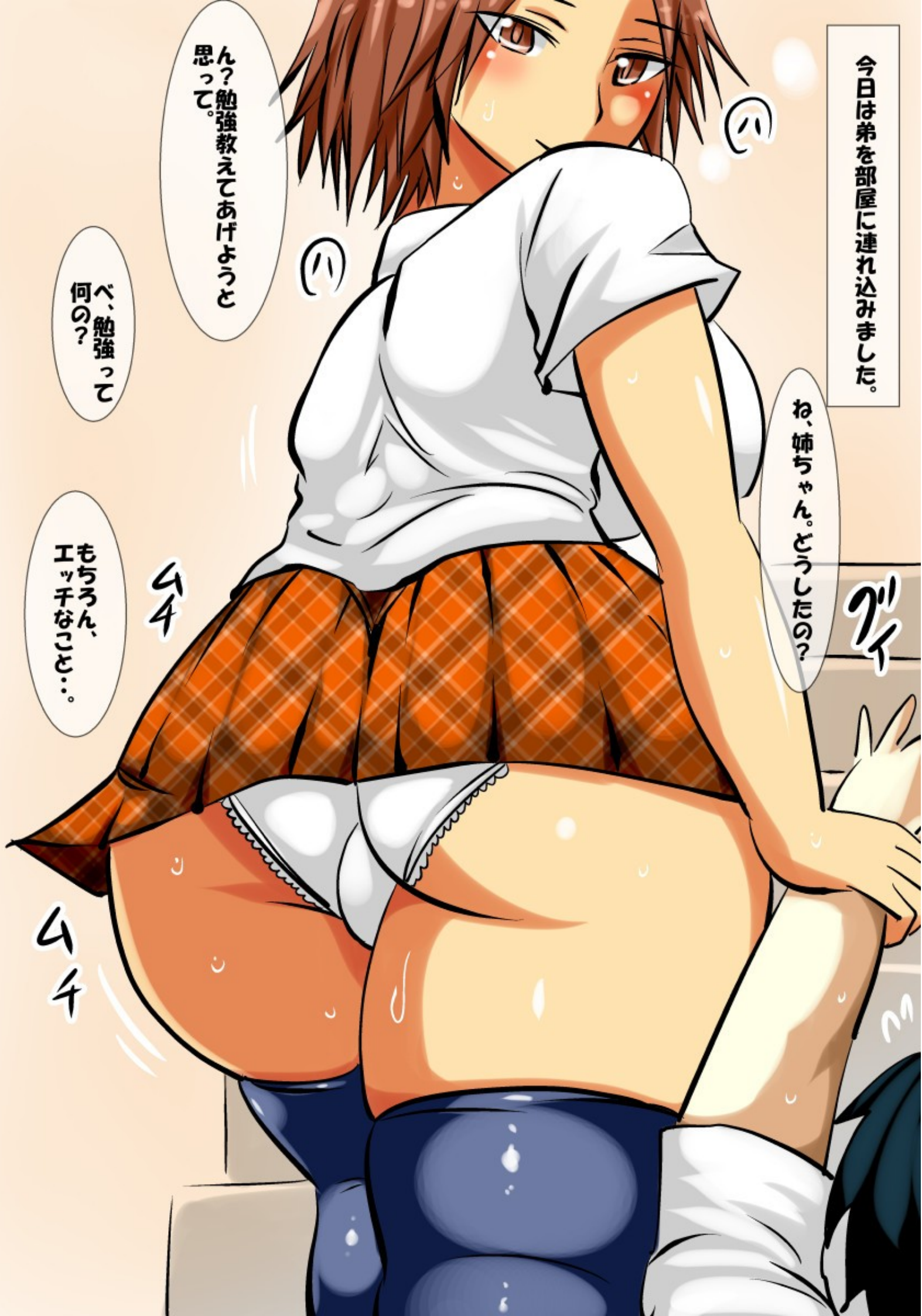
べ、勉強って
何の？

もちろん、
エッチなこと...

ムム

ムム

グイ



（あゝ）

（い）

ね、姉ちゃん！

姉ちゃん！

（ん）

（ハ）

ん…そうよ。
もっと激しく私の中に腰を
打ちつけて…！

（ん）

（ん）

（ん）

（ん）

この日、弟は夜になるまで
私の中をかきまわし続けました…。



今夜は大学生の兄としました。
自分の兄のことを言うのもなんですが、
結構かっこいい方だと思います。

に、兄さん…。彼女と
してないの？

いや、してるけど、
お前のことが
忘れられなくて…。

いけないお兄さん
なんだから…。知らないよ…。
彼女さんのこと、忘れちゃっても…。

兄が言うには、彼女よりも
私の中の方が気持ちいいみたいです。
結局、彼女とは別れてしまったそうです…。

ま♡

夜、勉強をしていると、いきなり父が私の部屋に入ってきて、ベッドに押し倒されてしまいました…

ふー。やっぱりお前の中は最高だな。

フル

フル

ん♡

ん♡

お、お父さん…。中に
出し過ぎ…

何を言ってる。まだまだ
出したりないぞ。もっと
たっぷり中に出してやる。

この日、朝まで私は
お父さんに抱かれてしまいました。
休みでよかったです。

ドゥ

ドゥ

この度は当作品をご購入くださり、ありがとうございます。
今作はいわゆる優等生が妄想していることを絵にした、という感じのもので、
実際の彼女の周りの男性たちは素晴らしい人々、という設定です。もっと
漫画形式にして妄想と現実の行き来を表現すれば実感がわきやすくなったやもです。
本当ならば30ページ作品を公開したかったのですが、10ページ作品となってしまいました。
ですが、いつか30ページ作品も完成させたいものです。

前作は同じキャラクター、世界観のモノクロによる作品を公開しましたが、今作では
フルカラーとなりました。ただ、どうにもモノクロでは表現できた部分がフルカラーに
なった途端でできなかったり、思った通りのものが描けなくなってきました。
不満の残る作品を公開することを、人によっては不誠実と感じるのかもしれませんが、
私の場合、完璧な作品のみを公開しようとしたら恐らく何年経っても完成しない可能性が
極めて高いです。公開できないくらいならば、多少欠点があるものであろうととんとん
公開して批判を浴びよう精神であります。

ふと気が付いたのですが、最近あとがきにて同じようなことを書き連ねているような
気がしてきました。もし同じようなことを書いていたらご容赦ください。